

## 学融合推進センター 運営委員・協力教員のご紹介

ニュースレターでは学融合推進センターの運営に携わっている教員の方々よりいただいたメッセージをご紹介します。今回で昨年度の本センターの発足よりその運営に携わっていただいております全ての運営委員の方よりメッセージをいただいたことになります。ご協力有り難うございました。

### 1. センター運営委員 蟻川 謙太郎 教授（先導科学研究科）

私は、先般の先導科学研究科（先導研）改組の折に葉山に赴任し、まもなく6年が過ぎようとしている。この間、新しい先導研では“進化学”と“科学と社会”の教育・研究が始まり、この3月には5年一貫制最初の卒業生を送り出す。この過程を経て、小平前学長が言われた“葉山の文化”が芽吹き始めたように感じる。いよいよこれからだ、と心が躍る。

一方、学融合推進センターは「全学に開かれた自由闊達な学術交流を行う本学の教育研究拠点として、また学融合による学際的で先導的な学問分野を開拓することを目的」として2年前に発足した。私はこのセンターが先導研の“基盤機関”だと思ってこの任に当たっており、折に触れて“学際的で先導的な学問分野を開拓する”ために先導研がすべきことは何かを考えている。進化学と“科学と社会”はいずれも、学際的で若い学問なので、様々な発展の可能性をもっていると思う。こういう分野を先導研の核に据えたのは、諸先輩方の慧眼によるものだ。我々は新分野の開拓につながる小さな“芽”を確実に捉えるために、広く世界に出てゆかなくてはならないし、世界からも眼を向けてもらわなくてはならない。外から確実に見えるのは、個々の研究成果であり、活躍する卒業生である。それがすべての基礎である。つまり、日々の教育と研究に邁進することこそがセンターの目的を達成する最大の力なのだと、今は思っている。

### 2. センター運営委員 齋藤 努 教授（文化科学研究科）

私が所属する日本歴史研究専攻の基盤機関である国立歴史民俗博物館には、文献史学、考古学、民俗学、美術史学などさまざまな文科系研究者がいる。また私を含め、全体の六分の一は理科系の研究者である。そのため、文理間も含めた幅広い学際研究が行われている。長年の試行錯誤の末にわれわれがたどり着いた学際研究の方法とは、つまるところ、「研究対象を様々な観点から調べ、その結果を有機的に統合する」という、きわめてシンプルなことである。ただし、その前提として、それぞれがどんな研究スタイルや思考方法で研究を行うのかを、お互いに理解し尊重しあうという意識をもっていなければならない。

その視点から現在実施されている共同研究の様子をみると、関連領域間の学際研究がようやく芽生えつつある段階で、目標とする「文理融合」まではまだ遠い。

これまでに出てきた研究計画をみると、「文理融合」のイメージとして、理科系研究者が研究倫理などの哲学的な理論付けを文科系研究者に期待するというものが少なからずみられる。しかし、そういうテーマで研究を行っている人文系研究者は、実際にはほとんどいない。

このようなことが起きている最大の要因は、他分野の研究者と直接に触れあう機会が

あまりにも少ないからであると思う。抽象的な理念を先行させるのではなく、まずは無理のない範囲で異なる分野の人と一緒に研究をしてみて、実質的な成果を出すためにはどうしたらいいかを模索することから始めるのが、結局は早道なのではないだろうか。

## 基盤整備事業からのご報告

基盤整備事業では、研究科及び専攻を跨ぐ共通課題のうち、集約して基盤的な整備を実施する事業を展開しています。それらは、①学術広報、②学術交流ネットワーク、③情報ネットワーク、④遠隔教育支援の4つから構成されています。今回は①の学術広報について紹介します。

学術広報では、広く学術の振興と普及、及び優れた研究成果の公的流通の促進を目的として、本学で行われている教育研究活動の成果を一般社会に発信・還元しています。具体的には、教育研究成果や地域へ向けた活動のプレスリリースを柱事業とし、それ以外にも、外部との窓口として取材対応、ホームページ等デジタルメディアによる情報公開、講演会やサイエンスカフェ等アウトリーチ活動の開催、地域連携活動、各種出版物の企画・編集・刊行などを行っています。また、本学は各専攻が地理的に分散しているため、学内に対しても情報共有のため、基盤機関との連携活動を行っています。

このように学術広報事業は幅広く活動していますが、ここで今年度から始まった基盤機関広報室とのネットワーク作りの活動について紹介したいと思います。多くの大学共同利用機関は広報室を持ち、それぞれの視点で活動していますが、実は多くの共通した問題に直面していることがあります。そこで、総研大から各大学共同利用機関広報室に呼び掛け、定期的集まれる研究会を立ち上げました。

第一回研究会は2011年11月末に東京で開催され、基盤機関広報室の広報担当者を中心に28名の参加がありました。当日は①学問の先鋭化問題に対して、科学広報・学術コミュニケーション及びその教育が担う役割、②発展途上の科学広報評価のあり方、③プレスリリースの今後の方向性、以上3つのテーマについて議論を行いました。本研究会は、今後も継続して集まる場を持ち、これまで各大学共同利用機関広報室内で限定されていた、知識や経験、課題等を情報交換する場になればと考えています。興味のある方は是非ご参加下さい。

最後に学術広報からの宣伝ですが、総研大広報室では、在学生・教員の研究成果をメディアを通じて広く社会に発信しています。記者発表・ウェブ発表等のプレスリリースを考えている方は、お気軽に広報室にご相談下さい。広報室については、下記HPをご覧ください。

(文責：学融合推進センター 助教 眞山聡)

総合研究大学院大学広報室HP：<http://www.soken.ac.jp/publicity/index.html>

## 第2回 公開研究報告会 開催のご報告

学融合推進センターでは、昨年度より学融合研究事業として遂行されている研究課題の経過報告及び成果発表の場として、公開研究報告会を開催しており、今年度はその第2回が平成24年1月12・13日の二日間に渡り、葉山キャンパス内にある学融合推進センター棟にて開催されました。



開会の挨拶をする高畑学長

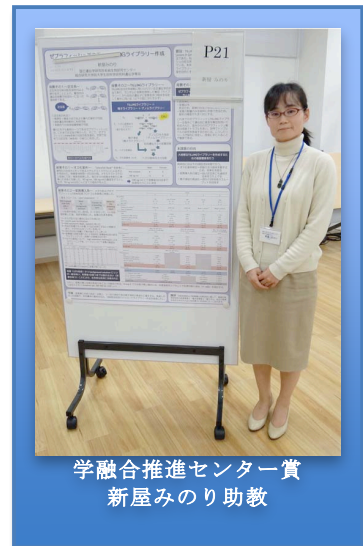


戦略的研究プロジェクトについて報告をする  
齋藤成也教授

本学の多くの専攻より両日合わせて70名近い研究者の方が集い開催された今回の公開研究報告会では、平成23年度公募型共同研究事業に採択されている15件の研究課題についての中間発表及び成果発表に加え、昨年度より戦略的研究プロジェクトとして4年間に渡り文理融合を目指す研究プロジェクトを実施している齋藤成也教授からもその研究の成果について報告が行われ、合計で16件の研究発表に対し闊達な議論・意見交換が行われました。「学融合」そして「文理融合」の拠点としての学融合推進センターの設立意義を反映し、当日ご参加いただきました研究者

の方からは分野を越えた研究者間のコミュニケーションの手法などについても提案・議論がなされるなど、大変に有意義な報告会となりました。ご発表いただきました研究者の皆様を始め、当日ご参加いただきました皆様に御礼申し上げます。来年度も引き続き報告会の開催を予定しておりますので、奮ってご参加いただきますよう宜しくお願いいたします。

また、今年度からの新しい試みとして、若手研究者研究事業及び女性研究者研究事業に採択され、本報告会にてポスター発表をお願いしております研究者を対象としたポスター賞を創設しました。該当する研究者総勢21名で、それぞれの研究者が2分間という短い時間でミニ発表を行った後に、掲示したポスターについて質疑応答を行いました。ポスター賞は学融合推進センター賞、若手研究者賞、女性研究者賞があり、研究の内容と当日の発表・質疑応答の様子等から総合的に判断されます。審査員の厳正な投票の結果、今年度の各賞は以下の研究者の方々に送られました。



学融合推進センター賞  
新屋みのり助教

#### 学融合推進センター賞

「本研究報告会におけるすべてのポスター発表のうち、最も優秀であると評価されたもの」

生命科学研究所 遺伝学専攻 **新屋 みのり** 助教  
研究テーマ：「ゼブラフィッシュ近交系の TILLING ライブラリー作成系の確立」

#### 若手研究者賞

「学融合推進センター賞を受賞したポスター発表を除く『若手研究者研究支援』の発表の中で最も優れたもの」

先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 **沓掛 展之** 助教  
研究テーマ：「大型ほ乳類における行動生態学と比較認知科学の融合」

#### 女性研究者賞

「学融合推進センター賞を受賞したポスター発表を除く『女性研究者研究支援』の発表の中で最も優れたもの」

高エネルギー加速器科学研究科 加速器科学専攻 **湯浅 富久子** 准教授  
研究テーマ：「計算機の進展による数理的手法の分析」

受賞おめでとうございます。受賞された3名の研究者には副賞として賞状が贈られる他、当日ご発表いただきましたポスターを学融合推進センター棟2階にて1年間掲示させていただきますこととなっております。葉山キャンパスへお立寄の際には是非ご覧下さい。

## 学融合研究事業 平成24年度 研究課題募集のお知らせ

来年度で3年目を迎える学融合研究事業では平成24年度分の研究課題を募集いたします。事業体制の再編に伴い、従来の戦略的研究プロジェクトと公募型共同研究事業では継続課題のみ申請を受け付けますが、新たに整備されました戦略的共同研究事業では新規の研究課題を募集いたします。分野横断的な研究課題や広い視野を持つ学生の教育に資する研究課題について積極的に支援を行う予定です。募集の詳細につきましては近日中にセンターのホームページ上に公開される予定ですので、ご確認の上ご応募いただきますよう宜しくお願いいたします。応募の締め切りは昨年と同様、3月末を予定しております。

また、若手研究者研究支援事業・女性研究者研究支援事業では昨年度同様に新規及び継続の研究課題の募集を行います。こちらも併せてご検討の上、ご応募ください。

学融合推進センター学内公募申請様式：<http://center.soken.ac.jp/outline/s61umn000002xyy.html>

## 学融合推進センター その他の事業予定

2月から5月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページに掲載される予定です。是非とも、ご確認ください。

総合研究大学院大学 HP：<http://www.soken.ac.jp/event/index.html>

- 学生企画事業 葉山科学と社会ワークショップ 2月22日(水)・23日(木)  
「『環境問題』の専門家とは誰か？—ステファン・ブッキング氏をお招きして—」  
開催場所： 葉山キャンパス  
問い合わせ先： 先導科学研究科 中島 正貴 [nakajima\\_masataka\(at\)soken.ac.jp](mailto:nakajima_masataka(at)soken.ac.jp)
- 総合研究大学院大学 学術交流会 3月22日(木)・23日(金)  
開催場所： 葉山キャンパス
- 総合研究大学院大学 前学期学生セミナー 4月13日(金)・14日(土)  
開催場所： 葉山キャンパス

## 編集委員会より

あと数ヶ月で新しい年度が始まります。そして、平成22年度より発足した学融合推進センターも3年目に入ろうとしています。試行錯誤を繰り返しながらではありますが、本学における教育研究活動の更なる発展の為、様々な事業を継続して展開していく予定です。今後とも学融合推進センターの活動にご支援、ご協力を宜しくお願いいたします。

(文責：学融合推進センター 助教 見上公一)

学融合推進センター HP：<http://center.soken.ac.jp/index.html>